

.....

1. 事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリ
2. 体験した事例の名称	一般住宅火災（木造 2 階建て）における消火作業中、2 階屋根から踏み抜け落下
3. 体験した事例の中心的要素	建物火災（2 階一般住宅）において、2 階屋根上に開口部をつくり消火作業中、筒先をシャットしてホースライン整理し移動しようとした時、ホース内圧力が高まり反動で屋根の梁を踏み外し、屋根が抜け消防隊 1 名が 1 階まで落下したものの。
4. 体験した事例の原因・理由	危険意識の欠如・危険予知の不足

.....

1. 体験した事例の直接的な原因	行動の意志決定に問題があった。
------------------	-----------------

.....

1. 発生日時	平成 11 年 8 月 27 日 午前 3 時頃
2. 発生した当時の天候	雨
3. 発生した活動現場	屋外：2 階建て一般住宅（2 階屋根上）
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	重傷の怪我をしていた（させていた）だろう。
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	墜落・転落、踏み抜き、
7. 事例体験時の活動	火災、現場活動中期、 [木造建物]
8. (7 の活動中) どのような作業中に発生したか	放水活動、
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した。

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者 A	年齢[24]歳、勤続年数[5]年、現場経験年数[5] 年、 階級[消防士]、 同様の活動 [1 年に数度]、 任務 [隊員]
○当事者 B	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、 階級[]、 同様の活動 []、 任務 []
○当事者 C	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、 階級[]、 同様の活動 []、 任務 []
その他 (当事者が 4 人以上の場合)	

1 1 . 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過 1	当事者 A	消火活動と排煙活動にあたる。	
経過 2	当事者 A	三連梯子を架け 2 階屋根へ上る。	
経過 3	当事者 A	ホースラインを取り放水開始する。	
経過 4	当事者 A	排煙活動のため 2 階屋根を破壊器具にて屋根をはがし開口部を作る。	
経過 5	当事者 A	開口部から注水する。	
経過 6	当事者 A	鎮圧状態になり、転戦しようと筒先をシャットし移動開始した時、ホースの内圧が高まりバランスを崩す。	
経過 7	当事者 A	バランスを崩し立て直そうしたら、足が滑って梁から踏み外し、屋根が抜けた。	
経過 8	当事者 A	そのまま 1 階まで落下した。	
経過 9	当事者 A	落下後、自力歩行で脱出した。	
経過 10			

【その事例発生時の状況について】

- 事故の場合：事故が起きたのはどうしてだと思うか？
ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

体力、反射神経等身体能力が優れていた。たまたま、負傷事故にならなかった。

- ## ○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	はい
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・ 1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・ 活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・ 体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c . 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d . 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○ 装備・資機材について

e . 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○ 活動環境について

f . 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	はい
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	はい

g . 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	はい
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h . 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	はい
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○ 指揮・管理について

i . 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k . 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	いいえ

○ その他

l . その他の理由があった。

いいえ

○ヒヤリハット事例：一般住宅火災（木造2階建て）における消火作業中、2階屋根から踏み抜け落下
（同様の体験は、初めて体験した。）

(07H0073)

・発生日時：平成11年8月27日 午前3時頃

経過	現場の状況	隊員A	備考
		隊員／消防士 ・年齢 24 歳 ・勤続 5 年 ・現場 5 年 ・同様の活動：1 年に数度	
	一般住宅火災（木造2階建て）	消火活動と排煙活動にあたる。	
		↓	
		三連梯子を架け2階屋根へ上る。	
		↓	
		ホースラインを取り放水開始する。	
		↓	
		排煙活動のため2階屋根を破壊器具にて屋根をはがし開口部を作る。	
		↓	
		開口部から注水する。	
		↓	
		鎮圧状態になり、転戦しようと筒先をシャットし移動開始。	
		↓	
		ホース内圧力が高まる。	
		↓	
		バランスを崩す。	
		↓	
		立て直そうしたら、足が滑って屋根の梁を踏み外す。	
		↓	
		屋根が抜けた。	
		↓	
		そのまま1階まで落下した。	
		↓	
		落下後、自力歩行で脱出した。	

◎ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

- 直接的な原因：行動の意志決定に問題があった。
- ・体力、反射神経等身体能力が優れていた。
 - ・たまたま、負傷事故にならなかった。

◎ヒヤリハットが起きた背後要因

- （心理・体調について）
- ・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。
 - ・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。
 - ・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。
 - ・活動に対する経験が不足していた。
- （活動環境について）
- ・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。
 - ・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。
 - ・狭隘な場所であった。
 - ・足元が躓いたり滑りやすかった。
- （指揮・管理について）
- ・隊員の連携が不十分だった。